

東日本大震災被災地支援ボランティア 「思い出探し隊」参加の報告

岩手県生まれの私は東日本大震災には大きな関心があり、機会があったら被災地を訪問してボランティアをしてみたいと考えていました。

そんな時に、かながわ東日本大震災ボランティアステーション代表の植山さんから、今週末の陸前高田市行きの「思い出探し隊」に「あと一人の枠がある。」との情報が入りましたので、即「参加する。」と回答し参加をしました。

事前研修を受け準備を整えて出発し、それなりの成果を残して無事帰着しましたので、簡単な報告をします。

とんでもない強行スケジュールだった

神奈川県と神奈川災害ボランティアネットワークの主催で、今後の継続的支援活動を確立する準備段階的な時期でした。交通費(バス代)無料も大きな魅力でした。

1、日時 4/23(土)~4/25(月)

出発 4/23(土)18:30 横浜駅西口天理ビル前→(車中泊)→

4/24(日)遠野市着休憩→陸前高田市⇔大船渡市→遠野市→(車中泊)→

4/25(月)5:00 帰着

※ 車中2泊・行程の4食は手弁当のハードスケジュールでした。

2、ボランティアの参加者

神奈川災ボラにボランティア登録した人(約700名)の中で希望する者・・・定員30名
コーディネーター格の60代が5~6人以外は、19歳~40歳・・・平均年齢は35歳以下
68歳(古稀)の私は恐らく最年長だったようである。

3、ボランティア活動の内容・・・「百聞は一見にしかず」の被災地の中で、、 被災された方々の思い出の品々(特に写真)の収集。

そのつもりで遠野に着いたところ、前日の大雨で皆さんに収集してもらおうと準備していた場所が長靴でも無理な水たまりになってしまった。本日は好天であるが、そのような事情なので、前に収集された品々が未整理になっているので

① 種分け作業(アルバム類、バラバラの写真、その他)②汚れた写真の洗浄作業

③ 洗った写真の乾燥作業をやってもらいたいと説明を受けた。

さらに、遠野市から陸前高田市へ向かう車中で、15人ずつに分かれて大船渡市にも来てもらいたいとの情報が入ったので、調整して15人を陸前高田市に残し15人は隣町の大船渡市に入って作業した。

作業時間はAM10:00~PM4:00

私は大船渡グループの種分け作業を担当した。

15人で洗浄→乾燥した写真は約600枚。陸前高田グループも同様だったらしい。

トピックス

1、貴重品ザックから100万円以上を発見・・・被害者に返還

大船渡グループの種分けは、2週間前に神奈川から派遣された部隊が収集した品々であった。写真類が一応片付いたので、その他の収集品の種分けを始めたとき、リックザック状のザックの中から1万円札が大量に出てきた。(100万円以上)

皆で現金だけではなく、実印と預金通帳、年金手帳なども一緒に入っていることを

確認した。もちろん、それ程の貴重品だから、持ち主の住所、氏名は即確認できた。地元夢ネットの岩城代表は、収集したのも種分けしたのも神奈川県ボランティアなので、何としても被害者を探し出して、今日中に返還式をしたい！と言ってくれました。その結果、連絡がとれて、その本人が我々の作業場に現れました。本人は、まさか見つかって戻ってくるとは夢にも考えられず、完全にアキラメテいました。本当にありがとうございましたと大感激。本人を囲んで記念撮影、この話は夢ネット大船渡の情報誌「みらい」に載ることはもちろんのこと、岩手日報にも載るだろうねと話題になった。

2、普代守った巨大水門・・・4/24(日)岩手日報

岩手に来た記念にと購入した岩手日報に、岩手県の普代村の巨大水門(高さ 15,5 ㍎)と堤防の記事が載っていたので A4 版に縮尺してこの報告書にホッチキス止めしましたので、興味のある方はお読み下さい。

3、お花便り・・・桜が満開されど、、、

遠野は梅も桜もまだ咲いていなかった。途中の住田町は梅が満開で、桜は咲き始め、そして、被災地である町全体が流失した陸前高田と市街地が瓦礫の山の大船渡は桜が満開だった。しかし、桜の下は誰も通らず淋しく咲いていた。岩手県の広さは四国 4 県と同じくらいなので、県北の宮古や普代村などは 5 月にならないと咲かない。(まだ、春が来ていない。)

私の感想

1、腰痛 40 年の私には、バス車中 2 泊のボランティア活動の継続はムリ。(今回限り)

ボランティアから帰って 2 週間も経つのに、いまだにシャキッとしない。これからは後方支援で「できるだけ、できることをやる。」ようにしたい。

2、自衛隊さんありがとう・・・私も見直しました。

被災地に行けばどこも自衛隊が活躍していた。日本の自衛隊が「今回ほど目覚しい活動をした例はない。」と思う。帰りにトイレ休憩毎にサービスエリアの売店に寄ると、必ず「自衛隊さんありがとう」と名づけられた桜饅頭が売られていた。私もおみやげに買って帰った。(岩手バージョンと福島バージョンあり、宮城バージョンは?)自衛隊がいつごろから、どのような形で撤退するかは重要な問題であろう。

3、ボランティア支援の種は尽きない。復興支援活動は 10 年続けても終わらない。

支援は大量輸送と義援金仕送りよりも少量他品目で被災地として欲しがっているもの(ニーズ)を送り、やってもらいたいことをやってあげることが大切である。県と県の災ボラはしっかりした支援体制ができているが、横浜市と横浜市災ボラは支援の形が見えていない。

4、ボランティア体験交流は活発に行って、期待されるボランティア活動を推進しよう。

遠野にまで出迎えてくれた、だるま会員 No.83 の渡辺さんは 4 月 1 日から気仙沼に宿泊滞在し、気仙沼を中心に宮城・岩手両県でボランティア活動をしていたので、体験談をじっくりと是非聞いてみたい。

平成 23 年 5 月 10 日

だるま会員 No.16・磯子区災ボラ会員 小原 茂